

# 秋田県 高P連会報



No. 123

発行／秋田県高等学校PTA連合会 事務局／秋田市山王中島町1-1 秋田県生涯学習センター5F TEL018(863)6681 印刷／秋田中央印刷株式会社



県内高校生の保護者と秋田大学との懇談会



県教育委員会との懇談会

## 第68回全国高等学校PTA連合会大会

## 佐賀大会

平成30年8月20日(月)、21日(火)  
佐賀市、唐津市、鳥栖市、嬉野市

メインテーマ 「広めよう 高めよう 慈しむ心」～君たちがつくる希望の明日をから

優勝した大阪桐蔭高校よりも準優勝の金足農学校にスポットが当たった昨夏の甲子園第100回記念大会。新語・流行語大賞にまでノミネートされた“金足農旋風”は、言葉で言い尽くせない感動を巻き起こしました。本当に見事でした。

金足農ナインが一丸となり頂点に向かって駒を進めていたまさに準決勝、決勝の平成30年8月20日21日、高P連全国大会「佐賀大会」が佐賀市総合体育館を主会場に開催されました。全国から約9,200名、秋田県より24校46名が参加しました。

一日目。開会行事後、ラジオDJなどで活躍されているレモンさん(山本シュウさん)の「レモンさんのビタミントーク!～慈しみの愛言葉! We are シンセキ!～」と題した基調講演が行われました。

レモンさんは娘の通う小学校のPTA会長を「レモンの被り物」をし「レモンさん」というキャラクターで5年間務めました。その奇抜な格好と行動から一躍有名となり、現在は大阪大学で講師を務めながら、ラジオDJとしても活躍しています。レモンさんの合言葉「We are シンセキ!」に込めた思いは「あなたの命は、あなただけのものじゃない!」という事だそうです。「遠慮なく“助けて～”と叫んでいい、それが今の人権、今はそれをハッキリと言える時代。でも、人は一人では生きて行けない、誰かの“お陰さま(おかげ)”があるから生きて行ける。だから全ての人は繋がってる!みんなシンセキ(親戚)なのだ!」。レモンさんの個性溢れる話は、会場を爆笑の渦に巻き込みながら、これからの新たなコミュニケーションの形や捉え方、具体的な行動などに触れ、思春期を迎えた子供との向き合い方や、大人同志の付き合い方などについて、笑いを交えながら教えてくださいました。

午後は、佐賀、唐津、鳥栖、嬉野に分散して6つの分科会が行われました。第1分会では角館高校PTA会長柏谷真一さんが発表の中で「地域の一員としてPTAが積極的に子供たちと関わり支援し見守ることで、将来、育ててくれた地域に対し、きつと恩返ししてくれる。」と力強く述べられました。

二日目は、各会場においてそれぞれ記念講演がありました。主会場では、記念講演後に分科会の報告と閉会式が行われ全日程が終了しました。

子供たちを取り巻く環境は、急激な社会の変化のなかで多様化複雑化し、人間関係のトラブルから、これまででは考えられないような事件や事故、犯罪に巻き込まれる可能性が増えてきています。周りの人と良好な関係を築くことは、社会に出て生きて行くうえで必要不可欠なことです。まずは相手の意見を聴き真意を確かめ、その上で自分の考えを伝え相手に認めてもらうことが大切です。

今大会のメインテーマに掲げる「慈しむ心」とは、自分も含めて人(相手)を大切に思い大事していくことだと思いました。子供たちの「慈しむ心」を育てていくため、私たち親が、PTAが見本となり、支えていかなければならないことに、気づかせてくれた大会でした。金足農野球部の大活躍とも重なり、記憶に残り続けるものになりました。

調査広報委員 松田 孝志(矢島)



基調講演するレモンさん



講演 古賀俊彦氏



佐賀といったら「はなわ!!!」



各地区の広報紙

# おめでとうございます

文部科学省では、PTAの健全な育成と発展に資することを目的として、5年毎にPTA活動の振興に顕著な功績のある方を文部科学大臣が表彰しています。本県から次の3名の皆様が受賞されました。

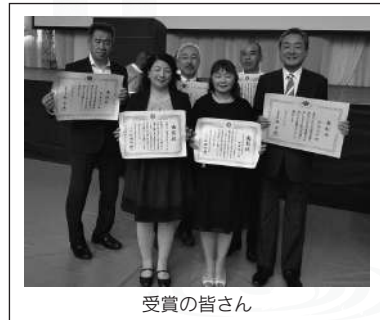
## PTA活動振興功労者表彰

- 佐野 元彦氏 (前全国高P連会長、前秋田県高P連会長、元秋田高校PTA会長)
- 佐々木 克巳氏 (元秋田県高P連会長、元秋田北高校PTA会長)
- 村岡 昇氏 (元秋田県高P連副会長、元大館国際情報学院高校PTA会長)

また、全国大会佐賀大会にて、優れたPTA活動で教育振興などに貢献した個人や団体に贈られる「全国高校PTA連合会長表彰」は、次の2名2団体の皆様が受賞されました。

## 全国大会会長表彰

- (団体) 由利高校PTA 大曲高校PTA
- (個人) 斉藤 昭二氏 (前県高P連副会長、前秋田中央高校PTA会長)
- 山信田 勢津子氏 (前県高P連副会長、前横手高校PTA)



受賞の皆さん

今年度のPTA活動振興功労者表彰を受けた佐野元彦氏、佐々木克巳氏、村岡昇氏が10月22日(月)県庁第2庁舎を訪れ、米田進県教育長に受賞報告をしました。

報告で、佐野氏「PTAは引退したが、地域人として引き続き子どもとの関わりをライフワークとしていく」、村岡氏「PTA活動を通して得られたいろいろな方との出会いは何にも代え難い。地域だけでなく秋田の子どもへの応援団でありたい」、佐々木氏「母親交流会での、母親の皆さんの熱き思いが強く印象に残っている。子どもたちを支えていく取り組みを続けていきたい」とあいさつ。

米田教育長はお祝いの言葉の中で「学校、地域、家庭のつながりの中で、将来を担う子どもたちのために、経験者としてこれからもさまざまな活動を通して支えてほしい」と述べられました。



米田教育長に受賞報告しました  
(前列左から佐々木氏、佐野氏、村岡氏)

## 全国高P連佐賀大会での分科会事例発表を終えて

県立角館高校PTA会長 柏谷 真一

佐賀県総合体育館大競技場にて、東北選出枠である第1分科会の事例発表をさせていただきました。6つの分科会に分散し、主会場での1,000人を超える会員の面前での発表でした。

「学校教育とPTA～地域の将来を担う人材の育成とPTA活動～」という分科会テーマの下、「少子高齢社会とPTCA～学校・PTA・地域は協働しながら～」と題して発表しました。

始めに学校所在地の仙北市角館の紹介を行い、開校90年を越える2校の統合の経緯、離れた場所にある定時制課程は支援学校と校舎の一部を共有し、日頃からの継続した交流活動が行われインクルーシブ教育の一端を担っていることなどを述べました。

次に本校PTAの特徴的な活動について紹介しました。

地域住民からの協力を得て実施している「登校時一声・マナーアップ運動」、PTA役員等が面接官となって模擬面接を行い、本校の高い就職率維持の要因となっている「就職志望者への保護者による模擬面接」、仙北市角館地区の小中学校PTAと情報交換し連携を深める場となっている「角館地区PTA連絡協議会」、自然災害やJアラート等への緊急

時対応としてPTAで費用負担している「メール配信システムの活用」等について報告しました。

同じ分科会で発表した愛知県・奈良県・沖縄県の各校も、それぞれの風土や地域環境、学校規模によって独自の活動をしているという事例で、助言者の佐賀大学大学院 上野教授から「各PTAの活動に“悪い活動”というものは無い。様々な状況下で、様々な活動を行なっていることを評価すべき。」とのご助言をいただきました。

今回の私の発表では、生徒が安全で安心な学校生活を送れるような環境作りは、地域との協働が必要不可欠であることを強調しました。

14分間という制限時間内で終われたものの、自作の原稿やスライドに加え、訛った事務的な早い口調のため、わかりづらかったらと思うかもしれません。

ご協力をいただきましたみなさま方に深謝申し上げます。



秋田県立角館高等学校  
PTA会長  
柏谷 真一

## 2つの懇談会

### ■はじめての秋田大学との懇談会

進路対策委員長 川口 広美(小坂)

10月23日(火)秋田大学にて「懇談会」が開催され、全県から保護者の皆さん約100名の参加がありました。

この会の企画が持ち上がったのは一昨年のことです。秋田大学の伊藤成年教授より、大学と県高P連で保護者の方に“大学の今”を知っていただく「懇談会」を開催したい、と提案がありました。それを受け、進路対策委員会にて検討し実施に至ったものです。

高校生や教員向けの説明会はこれまでも行われていますが、保護者だけを対象としたものはめずらしいのではないのでしょうか。

約1時間の授業見学は貴重なものでした。秋大生の普段の様子を知る絶好の機会であり、真摯に講義に臨んでいる姿が印象的でした。全体説明会では、各学部の特色やカリキュラム、日常生活・経済的支援体制(奨学金制度)、就職・修学支援体制などを具体的に伺うことができました。

その後、手形と本道のキャンパスに分かれて施設見学。教育環境が充実していることを実際に見ることができました。また、学生が学ぶ立場で説明してくれる場面もあり、子どもの進路を考える上で大変参考になりました。

初めての試みのため手探り状態で始まった感もありましたが、保護者として関心のある内容が多かった懇談会でした。



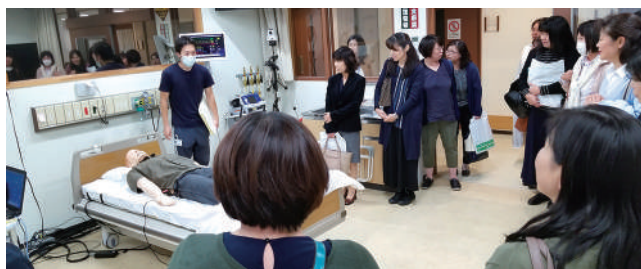
秋田大学学長 山本 文雄氏



秋田県高P連会長 石嶋 勝比古氏



施設見学へ出発!!



本道キャンパス見学の一角

### ■県教委との教育懇談会を終えて

総務委員長 渡部 羊三(秋田南)

11月16日に県教委との教育懇談会が開催されました。今回のテーマは、総務委員会での話し合いをもとに、①第七次秋田県高等学校総合整備計画について②教員の多忙化防止についての2点としました。

一つ目の整備計画については、高校再編の関心が高く、計画への質疑応答が主となりました。再編統合した高校PTAから経験談を頂き、今後の参考となる前向きな意見が出されました。地元の高校が減ったりなくなってしまうことは地域にとって大きな問題です。その一方で高校の役割を考えるとある程度の規模を維持することが生徒たちの為であることも確かです。しっかりと合意形成を図り、秋田の教育の大きな枠組みを考えていく必要を感じました。

二つ目は教員の多忙化防止についてでした。県教委からの説明を受け、現実の時間外労働時間が民間企業の常識と大きく乖離していることを知りました。各校で時間外を減らす策をとられていることは理解いたしましたが、PTAとして保護者として多忙化解消にお役立ちできることはないか議論すべきと考えます。先生方がより良い授業を行い、部活動に注力するために忙しくなるのを仕方がないことと見てしまうと問題の解決にはなりません。抜本的で大胆な考え方の導入が必要であると思います。

今回の教育懇談会では大変活発な意見交換ができ有意義な時間となりました。ご参加いただいた秋田県高P連の理事の皆様と県教委の皆様のご協力に感謝申し上げます。



活発な意見交換ができました



県教委の皆様

# 第31回 母親会員交流会

## 秋田の食文化から生きる(生きる)力を養う～母として伝えられること～継承～

平成30年9月21日(金) 秋田県生涯学習センター 講堂



### 桜梅桃李

母親委員会委員長  
川村 眞奈美(秋田中央)

秋田大学特別教授の佐々木信子先生を講師にお迎えして「秋田の食文化から生きる(生きる)力を養う～母として伝えられること～継承～」をテーマに第31回母親会員交流会が始まりました。佐々木先生は高校の家庭科の先生を経て校長先生としてNHKの料理コンクールで全国大会に出場され『人は誰でも重要な存在、ほんの少しの勇気と自信が可能性を伸ばす』と体験をもとにお話して下さいました。

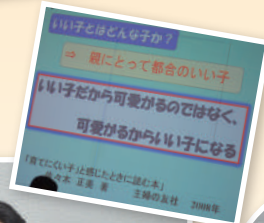
先生のお話をお聞きして、昔読んだ古今著聞集の《桜梅桃李》を思い出しました。桜は桜として、梅は梅として、桃は桃として、李は李としてそれぞれの花を咲かせる中に本当の良さがある。人も同じ、自分らしくありのままに努力を続けていく中で必ず自分にしかない花を咲かせるのだと。母としてそのことを伝えていけたらと胸が弾む思いでした。

午後からは、昨年母親委員でもありました保坂美加様より3B(サンビー)体操を教えて頂き、心も体もリフレッシュすることができました。グループ討議も笑い声が飛び交い、子どもが前に進む背中を押してあげられるような集いになったと、また一歩前に進むことが出来たような気がしました。私たちも《桜梅桃李》の如くそれぞれの花を咲かせていきましょう。

子どもたちの未来のために私たちがいろいろなものに触れ感動したり、共感したりしながら母親会員交流会を過ごせたことを心より感謝いたします。御協力頂きました皆様、ありがとうございました。



ようこそ  
母親交流会へ



講師 佐々木 信子氏



岩手県母親委員長の  
菊池 まゆみ氏

### 出席者の感想

#### 絆

米川 享子(二ツ井)

初めて母親会員交流会に参加し、とても楽しい一日を過ごしました。

減多に聞くことができない先生の講演を聴いて「できる女」になった気分になり、ご来賓の岩手県高P連母親委員長も加わってのグループ別討議では日頃の思いを語り合うことで“母親同士の絆”を感じたりしました。

講演と討議のインターバルに行った「3B体操」も実に効果的でした。最近では運動することから遠のいていたのでうっすらと汗をかいてストレス発散。ちょっとした「女子会」を体験できたみたいでした。

#### 親子の距離感を大切にしながら…

高橋 真由美(横手)

学びあり、癒しあり、和みあり。母親が集い、心も身体も開放感溢れる中で、初対面でも賑やかに盛り上がる交流会は、澆刺とした笑顔運んでくれる最高のパワースポットとなりました。

「可愛がるから良い子になる。」  
ご講演の教訓に学び、過保護と放任、緩急のバランスを意識しながら、高校生の多感な時期を支え、応援していきたいと思えます。



### リフレッシュ:3B体操

3B体操とはボール、ベル、バルターの頭文字です



講師 保坂 美加氏



ハイ♡のばしてのばしてえ～

目一杯で～す♪



## 県北地区

「地域の将来を担う  
子どもたちの育成にむけて  
～学校・家庭・地域の連携～」

平成30年10月4日(木)

場所 大館市:ルネッサンスガーデン プラザ杉の子

大館国際情報学院高校PTA会長 中嶋 友巳

県北交流大会を終えて思うことは、初めて経験した『パネラー』の大変さです。

大会開催の2週間ほど前、講師の村岡昇さんから「持ち時間のうち半分を講演、その後にパネルディスカッションをしますので、登壇してください。」との依頼を受けました。『歓迎の言葉』だけで頭がいっぱいなのに、壇上で自分の考えを述べるとは…。しかし、大館・北秋田地区のPTA会長の皆さんが登壇されるので、私も承ることにしました。

最初の話題は私に振られ、その応答も準備していたことから、滑り出しは順調だったと思います。しかし、その後は想定外の質問で頭が真っ白になった瞬間もありました。緊張の連続でしたが、最初で最後の貴重な経験をさせていただいたと思っています。

最後に、大会に参加された皆様に感謝申し上げますとともに、大会の運営等にご尽力いただいた大北地区高P連の皆様にも厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



パネルディスカッション



本城奈々さんのトーク&ライブ

## 地区 交流会 報告

## 県南地区

「豊かな風土を  
継承する子どもたちへ」

平成30年9月28日(金)

場所 横手市:横手セントラルホテル

増田高校PTA会長 木村 好宏

地区交流大会を無事盛大に終えることができ、開催にご尽力いただきましたすべての皆様へただただ感謝しかありません。

研究主題『豊かな風土を継承する子どもたちへ』のもと、秋田県を代表する一流ブランドである「稲庭うどん」を全国のみならず世界へと発信されている佐藤正明氏の講演、そして3テーマによる分科会と、非常に有意義な交流大会であったと自負しております。

急激な早さで変化する社会の中で、私たちPTAが子どもたちを導いていく一つの方向性を示せたのではないのでしょうか。そして、この交流大会で培われたものを、すべての保護者に還元していくことこそが肝要であると思えます。

最後になりますが、「県南は一つ」を合言葉に、子どもたちの成長に資する本交流大会が永遠に継承されることを願ってやみません。



分科会の様子



実演を交えた佐藤正明氏の講演

## 中央地区 「地域と連携した キャリア教育充実のためのPTA活動の在り方」

平成30年10月19日(金)

場所 秋田市:秋田ビューホテル

秋田中央高校PTA会長 吉田 政彦

中央地区交流大会は10月19日(金)に秋田市の会場で、137名の参加者を迎えて開催いたしました。

前半は、「動物社会を通し考える家族、人のつながり」と題し、大森山動物園園長 小松守氏よりご講演を頂き、動物社会からは、親子のつながり・人とのつながり・コミュニケーションの大切さなどを学ぶことができ、今後の仕事・家庭・地域とのつながりに役立つ内容でした。

後半は、15グループに分かれ意見交換が行われました。各グループで様々な意見が交わされ、予定されていた60分がとても短く感じられました。その中で最も多く出た話題がスマホについてでした。近年スマホの普及でほとんどの子供が持つ中、家庭での会話がなくなりコミュニケーションが取れない・SNSなどを使用しているトラブルも多い等の話があり、今後のスマホの使用方法を改めて考えなおす必要があることを痛切に思い知らされました。

今回の開催にあたり、ご支援・ご後援に、そしてご参加してくださいました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



講師 小松 守氏



意見交換会の様子

# ー平成30年度 秋田県高P連 広報紙コンクールー

平成31年1月12日(土)に県高P連広報紙コンクール審査を行いました。

発行回数や時期はそれぞれ異なりますが、それぞれのPTAの思いが込められている広報紙が18校から届きました。

応募のあったすべての広報紙を、外部審査員の藤原謙氏(秋田魁新報社事業局長)、高橋保子氏(生涯学習センター所長)と調査広報委員10名が、丁寧に審査しました。

審査結果は次のとおりです。最優秀賞と優秀賞の3広報紙は、東北地区高P連広報紙コンクールに推薦されました。

### 最優秀賞

- ・横手清陵学院高校(東北推薦)

### 優秀賞

- ・秋田和洋女子高校(東北推薦)
- ・秋田公立美大附属高等学院(東北推薦)

### 優良賞

- ・能代工業高校
- ・秋田明德館高校(外部審査員賞)
- ・秋田商業高校
- ・西仙北高校
- ・ゆり支援学校
- ・矢島高校
- ・天王みどり学園

### 奨励賞

- ・大館桂桜高校(外部審査員賞)
- ・男鹿海洋高校
- ・仁賀保高校
- ・大曲農業高校太田分校
- ・角館高校
- ・横手城南高校(外部審査員賞)
- ・新屋高校
- ・大曲農業高校

### 外部審査員の藤原謙氏から寄せられた各校コメントの一部

- 【大館桂桜】 最終ページの体育祭の紙面は、構図のいい写真をふんだんに使い、サイズにも工夫がある。特に吹き出しの内容が光る。
- 【能代工】 全ページすべてカラー写真で見出しにも色を敷いていて、白っぽくない工夫がある。
- 【男鹿海洋】 速報性を活かした広報紙。努力作。生徒たちの思いが紙面から伝わってくる。
- 【新屋】 アンケート記事は生徒にも読んで欲しいという意図が伝わる。質問事項、人数をもう少し増やせばより充実した企画になったと思う。
- 【明德館】 写真が多いが、メリハリのあるサイズだったり重ねたりしながらの配置は効果的。縦組み横組みの配置がバランス良く上手い。
- 【秋田商】 卒業式に発行を合わせた広報紙。温かさを感じる卒業生への応援メッセージなど盛りだくさんで、編集の苦心の跡がうかがえる。
- 【美大附属】 フリーペーパーのようなきれいな仕上がり。校長あいさつ、PTA会長あいさつは読みやすく、子どもたちに対する愛情あふれる内容。
- 【和洋女子】 各ページともテーマを絞った構成で、コンパクトにまとまっている。中でも秀作は「日本鳥学会報告」、ニートのハシボンガラスの話は面白かった。
- 【矢島】 コミュニティスクール指定、やしまブランディングプロジェクトなど、特色ある学校の様子が分かる内容に仕上がっている。縦組み、横組みをうまく使っている。
- 【仁賀保】 1面の写真構成は効果的。サイズを変えての配置しているところに工夫がある。校長の雑感も同感である。
- 【西仙北】 センターの「各部の活動を振り返って」はレイアウトで、生徒の一言を加える工夫もされていて意欲的。卒業というタイミングにふさわしい内容の広報紙。
- 【大曲農】 卒業生から家族へのメッセージは、短い一言であるが感動的。全クラスの写真、表情の分かる写真もいい。
- 【大農・太田】 少ない人数でも部活動や校内行事にチャレンジし結果を残していることが分かる。地域とも密接にかかわり、地域の一員として活動していることは頼もしい。
- 【角館】 親子の寄稿で構成した「旅立ちの日によせて」はいい企画。親への感謝、子どもへのエールなど心温まる内容。紙面の工夫も良い。
- 【横手城南】 全ページ横組みというのが大きな特徴。各ページとも二つ折りの組み方で、読み手の立場に立った気配りを感じる。
- 【横手清陵】 中高一貫教育校の横手清陵らしい広報紙。親の思いの詰まった「部活動に期待」は共感できる内容。「陵子の部屋」は遊び心があり校長に親しみを感じるきっかけになる。
- 【天王みどり】 地域の協力を得ながら夏祭りや学園祭を生き生きと行っていることが伝わる内容。子ども一人ひとりが輝きを増しているようで微笑ましい。
- 【ゆり支援】 子どもたちの活躍が良くわかる内容。写真サイズ、キャプション、コメント、箱組み、背景の淡いイラストなど工夫満載。

## 広報紙編集研修会

調査広報副委員長 佐々木 美智子(御所野)

このページ  
いいでしょ!



講師 藤原 謙氏

大変参考になりました。



9月14日(金)さきかけホールにて、秋田魁新報社事業局長 藤原謙氏を講師に「楽しむ広報紙づくり」をテーマに広報紙編集研修会が開催されました。

初めに、「広報紙づくりは雑談感覚での話し合いで編集会議を開きましょう。気軽なお喋りから良いアイデア、案が浮かぶものです。」と作る側が楽しんで取り組むことの大切さを話されました。

昨年の広報紙コンクールで審査されたものをスクリーンで紹介しながら、読み手が思わず手にとって見たくなる広報紙にするには、表紙に相応しい記事、文章と写真のバランスを考えたレイアウト、カラーとモノクロの組み合わせ効果、簡潔で濃密、平明な記事と的を射たビジュアルの併用、図解、表、グラフを活用し視覚的にも読みやすくする工夫、など具体的で分かりやすい説明で、とても有意義な研修会となりました。

参加された皆さんは真剣にメモをとり、学んだことを早速次回の広報紙づくりに生かしていきたいという声が多く、今後の広報紙づくりの充実につながることを実感いたしました。

# 秋田県特別支援学校「学校展」開催

調査広報委員 佐藤 徹(ゆり支援)

特別支援校16校による「秋田県特別支援学校 学校展」が、9月29、30日の両日、秋田市にぎわい交流館AUにて開催されました。

会場入り口付近では、授業や作業学習などの様子が、テロップとナレーション付きで紹介ビデオとして放映されており、真剣な眼差しで作業製品を造っている様子や、それぞれの障害特性に合った授業の様子など、各校の特色が盛り込まれ、支援教育理解推進に一役かかっております。

各展示フロアには、学校紹介パネルと児童生徒が作成した作業製品の他、絵画や写真、書道などが一面に展示され、驚嘆の表情と声がそこかしこより聞かれ、訪れた方々の目を楽しませておりました。

また、短い時間でしたが、作業製品の販売と喫茶コーナーも開設され、各校の生徒達が製品説明や接客対応に追われ、こちらも好評を得ておりました。

今年で47回目となる学校展は、特別支援学校で学ぶ児童生徒の様子と、学校の様子を紹介し、皆さんに特別支援教育の推進と障害者理解を図る事を目的として、主催校を持ち回りで毎年行われております。

地域の商業施設や銀行などで時々行われる、作業製品の展示や販売とはまた一味違った魅力が、この学校展にはあります。

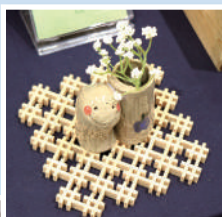
障害を持つ子の親として、皆さんに是非一度会場に足を運んで頂き、子ども達の頑張りや支援教育の理解推進、そして障害者理解がもっともっと世の中に広まって行って頂ければ大変嬉しく思います。



盲学校で利用されている教材



木工製品と染色



組子と陶芸



陶芸とガラス細工

生徒の力作です

## 編集後記



会員の皆様に会報第123号をお届けする事が出来ますことを嬉しく思います。早いもので今年度も残りわずかとなりましたが、この会報が子育て世代の皆様にとってちょっとした“気付き”を与える事が出来たら編集に携わらせて頂いた私達にとってこの上ない喜びです。

お忙しい中、原稿の依頼を快くお引き受け頂きました皆様には大変感謝しております。ありがとうございました。

調査広報副委員長 大日向 一広(羽後)